

角田光代さん鹿屋“視察”

「対岸の彼女」「八日目の蟬」などの作品で知られる直木賞作家の角田光代さんが2日、鹿児島県鹿屋市のかのやばら園を訪れた。同園を舞台にした恋愛小説を執筆するための取材で、作品は来月末に発行される小説新潮12月号に掲載される。

小説新潮では、昨年の性作家が恋愛小説を執筆12月号で全国の「恋人の筆。今回も角田さんのほ「聖地」を舞台に7人の女か、同じく直木賞作家の



ばら園舞台に恋愛小説

小説新潮の12月号掲載

井上荒野さん、村山由佳さんら7人が、同園や六本木ヒルズ展望台などをテーマにした短編小説に取り組む。

角田さんは熱心に市職員の説明を聞きながら、開花したバラを撮影したり、メモを取ったりしていた。視察後には嶋田芳博市長と懇談。嶋田市長は「ばら園をPRしていただけるのは本当にうれしい。素晴らしい作品に仕上げしてほしい」と期待を寄せていた。

鹿児島県を初めて訪れたという角田さんは「バラの種類の多さに驚きました。ばら園は周囲の景色も美しく、とても気持ちの良い場所」と笑顔を見せた。主人公の設定やストーリーは未定とい、「市内を見て回って、今夜から考えます」と話した。